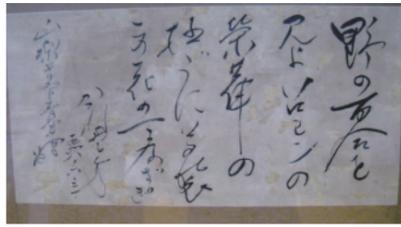


ペンリレー  
賀川豊彦 その発想と実践

甲府21ワイズメンズクラブ 後藤 哲夫



山梨 YMCA 会館事務所内に、キリスト教伝道者で社会運動家、賀川豊彦の書が掛けられている。「野の百合を見よ。ソロモンの栄華の極みだに、その装いこの花の一つにも及ばざりき。」という聖句である。為書きに1948年6月21日山梨キリスト教青年会にとある。この日、甲府ワイズメンズクラブ初代会長、市川規一氏の求めに応じ、県会議事堂で「一粒の麦」という題で講演会が開かれた。続いて24日、甲府一高でも講演し、多くの高校生が心燃やされ、ハイスクール YMCA 結成のきっかけとなった。賀川豊彦は神戸の貧民窟で「貧しき者の聖者」と言われた、世界的に有名な人物である。自伝的小説「死線を越えて」は、100万部の大ベストセラーとなった(大正9)。ところが3年後に関東大震災が起こる。居てもたってもいられず賀川は、神戸から船でやっと東京にたどり着いたが、死者10万5千、消失家屋30万戸という大惨事を目のあたりにした。焼け焦げた無残な遺体を前に、彼の心こみ上げてくるものがあった。すぐに神田の被災した東京 YMCA に出かけ、主事である盟友石田友治に会った。二人は、まず祈った。すぐに立ち上がった二人の行動力はすざまじいものだった。賀川は1ヶ月に59回、各地で支援を訴え、義援金を集めた。その留守中、中心となり奮闘したのは石田であった。賀川は、民間初めてのボランティアを組織し、常にやる気を呼び起こし、彼らを信頼して働きを委ねた。「活動の基本は心であり、目標は自立による復興支援です」と彼らを説いた。賀川について田中康夫(作家、元長野県知事)はこう述べている。「一人一人の人間は微力だが、決して無力ではないということを実践・体現した人物、今こそ彼の生き様を確認すべき時だ。」と。

YMCA 東山荘にも賀川の掛け軸がある。「農村青年塾為 愛神愛隣愛土」(神を愛し、人を愛し、土を愛すという三愛精神の意)と書かれている。彼はここで農村福音学校を開き、農村青年の指導にあたった。これが後に農協を生み出す基となった。旧農協マークも創ったが、一粒の麦の茎に十字架が描かれ、隣に力三つが描かれている。故日野原重明は、「賀川先生は発想を持った人であり、その発想を実践する人であった。」と語っている。今私たちに求められるのは、賀川の言う「友愛と互助」という心である。さらにその実践である。また死ぬまで平和を唱え続け、武器のない平和な社会を祈り求めた。子供を愛し、子供たちを救いたいと願っていた。「子供は大人より偉い。次の時代は子供のものだ。子供が地上に天国を作る」が彼の口癖であった。



項目	ニコニコボックス	バザー収益金	クリスマスオークション	切手
目標値	250,000	50,000	50,000円	5,000g
10月の合計	20,671	6,770		
10月末迄累計	118,013	6,770		0g
達成率	47.2%	13.5%	%	0%

\*バザー(11月2日当日分)は未集計です。

山梨YMCA便り

ありがとう、さようなら。連雀の会館

山梨YMCA 総主事 露木 淳司

秋も深まり、いよいよ現在のYMCA会館で過ごせる日々が少なくなってまいりました。今年の秋は台風などによる水害が相次いで、老朽化進む会館も例年になく雨漏りに悩まされました。あと半年、何とか持ちこたえて、と願うばかりです。1972年から使い始めて47年間、約半世紀をこの甲府市の連雀問屋街の地に立ち続け、青少年のために特別な空間として存在し続けてくれました。毎年雨風にさらされながら、夏は猛暑、冬は豪雪にも見舞われたこともありましたが、山梨YMCA40年史「荒野に水わきいで」を紐解くと、第7章の「青少年センター完成までの経過」として、大澤英二理事長によって当時の様子がまとめられています。この施設は「青少年の間に神の国を拡張するための聖なる業に預かっているというひそかな恐れと喜びとが根底にあった」とあります。高度経済成長真っただ中の時代です。山梨YMCAもその勢いに乗ってこの会館を完成させ、その後、英語学校を中心に、体育、音楽、つぼみぐら〜ぶ、野外活動などの事業が聖なる業として運営されていくこととなります。ワイズメンも甲府クラブが30周年を迎え、活気に満ちた時代に入っていきます。そんな歴史を静かに見守り続け、支えてくれたこの会館が、いよいよ終わりの時を迎えるのかと思うと感慨もひとしおです。21世紀に入ると町の衰退に合わせるかのようにYMCA会館も勢いを失いました。特に10年前はすべての事業が低調で減少の一途を辿っていました。でも神様がYMCAを見放すはずがありません。ここ数年、プライムタイムやぶどうの木、きらきら教室などが軌道に乗り始めました。特に夕暮れ時は子供たちで活気にあふれ、まるで会館が取り壊しの気配を悟って有終の美を飾ろうとしているような気がします。連雀の会館、本当にありがとう！この地で得た賜物をそのまま新会館で行われる各事業に、神の国拡張という使命と共に、感謝して引き継いでいくことを責務と感じます。スタッフ一同「恐れと喜び」を胸に秘めながら、最期の最期の日まで有意義な時間をかみしめていきたいと思っています。



https://www.facebook.com/groups/1371512503011588/



http://www.kofu21.com

**THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A.**

**THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21**

2019年(令和元年)11月5日(火) 発行

山梨県甲府市中央5丁目4-11  
山梨YMCA青少年センター  
〒400-0032 TEL 055-235-8543  
FAX 055-235-8553

プリテン委員長 後藤哲夫

国際会長主題: Building today for a better tomorrow  
 アジア太平洋地域会長主題: アクション! Action!  
 東日本区理事主題: 勇気ある変革、愛ある行動  
 あずさ部長主題: あなたの入会時のときめきと多くの経験をワイズのために!  
 甲府21クラブ会長主題: 『対話と実行』

Jennifer Jones(豪州)  
 田中 博之(東京多摩みなみ)  
 山田 敏明(十勝クラブ)  
 赤羽 美栄子(松本クラブ)  
 荻野 清

甲府21ワイズメンズクラブ  
**2019年11月会報**  
 強調月間 ワイズの理解

今月の聖句

「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう」

(ヨハネの黙示録 第3章20節) 荻野 清 選

会長挨拶 山梨YMCA新会館への一考  
 甲府21ワイズメンズクラブ会長 荻野 清



山梨YMCA新会館の建設は、8月の起工式後、三ヶ月目に突入しました。設計段階で熟慮に熟慮(奈良田氏に感謝)をした建物は、来春3月の竣工へ向け急ピッチで建設が進捗しつつあります。ところで本YMCAは、1946年5月に国内13番目の「都市YMCA」として設立され、いわゆる「キリスト教青年会」としての語学やスポーツ、野外体験など、数々の

プログラムの提供をおこなってきました。この歴史を踏襲するべく、この新会館建設を機に現行プログラムを発展的に遂行する中、さらに一歩進んだ切り口の新事業や新プログラムを常時思考しながら、本YMCAが進むべき姿を他所のYMCAなどを参考に描いていきたい一人であります。

このことに関して、小職は常議員会に対して“New山梨YMCAプロジェクトチーム”(仮称)というタスクフォースを設けて、“トライ&エラー方式”で進めるという提案をいたします。そのためには、少数精鋭の人員による計画立案と同時のリサーチを如何にするかが重要と考えます。ごく近い将来に目を向けて、本YMCAの発展的姿は、既存事業のさらなる発展と新規事業の実現と考えます。われわれは、オール山梨YMCAと外部有識者のコラボレーション企画が取り入れられた本YMCAが、新天地でオペレーションされている姿を思い描いていきませんか。

佐藤重良メンによる垂れ幕。



～11月例会プログラム～

日時 2019年11月5日(火) 19:00～  
 会場 山梨YMCA青少年センター  
 司会、小沢智之メン

- ① 開会点鐘 荻野 清会長
- ② ワイズソング、ワイズの信条
- ③ 今月の聖句、一言 荻野 清メン
- ④ 会員スピーチ 相川貴宏メン
- ⑤ 会長挨拶、ゲスト紹介 荻野 清会長
- ⑥ ハッピーバースデー
- ⑦ ワイズディナー
- ⑧ ゲスト卓話 山梨県立大学国際政策学部 藤井うらら様

演題「国際ワイズメンズクラブアジア太平洋地域大会報告」  
 ～今日からできる環境問題へのワンアクション～

- ⑨ 諸報告
- ⑩ YMCAの歌
- ⑪ 閉会点鐘 荻野 清会長

卓話者プロフィール

山梨県立大学国際政策学部 藤井 うらら様



山梨県立大学 国際政策学部 総合政策学科2年  
 神奈川県出身  
 大学では、政治・経済・法律を中心に学んでおり、ゼミは公共政策を研究するゼミに所属しています。特にジェンダー平等に関心があるため、政経法面だけではなく文化的観点や歴史的観点など、様々な視点から研究をする予定です。

会員在籍者数 35名(2019年10月31日現在)

○10月の出席率  
 例会出席者数 25名  
 その他の出席者数 6名  
 合計 31名 89%

HAPPY BIRTHDAY IN NOVEMBER

メン: 廣瀬 健さん 11月16日  
 山本 俊一 11月16日  
 赤根 学さん 11月19日  
 ガーベラの花言葉は、「希望」「常に前進」「前向き」



2019年10月例会報告

寺田 喜長

日時 2019年10月1日(火) 19:00~
会場 山梨YMCA青少年センター
司会 飯田 剛メン 奏楽 荻野メネット
今月の聖句、一言 相川メン
会員スピーチ 依田メン
荻野会長の点鐘にて開会、相川メンの今月の聖句が別の聖句が掲載されており訂正、所属教会の基本聖句を紹介、教会の行末を案じてのコメント。依田メンはワイズへ入会したことに感謝を述べた。会長挨拶は納涼例会が盛会の内に終える事が出来たの感謝、YMバザーへの協力要請と今後の行事について説明、続いて誕生月者お祝い。しかし作田メン、佐藤重良メンがブリテン紙面に紹介が無くお詫しを頂く。今月の卓話は中田純子山梨YMCAチャイルドケア事業部マネージャーの「子供に寄り添うチャイルドケアとは」と題して講演をいただきました。自己紹介の中で子供達と向き合う事業に携わるきっかけや、山梨YMCAへの関わりの紹介、現在のチャイルドケア事業の状況説明と今後の展望を熱くお話しして頂きました。中田さんが推進するチャイルド事業が新会館建設中の山梨YMCA躍進の大きな柱の一つで有る事を再確認させていただきました。諸報告は会長よりYMCAバザーでの当クラブの担当事業の説明、各担当者の配置説明があり定刻に閉会。出席者はメン25名、メネット5名。ゲスト1名



例会風景 山梨YMCA 2階ホールにて



左 ハッピーバースデースピーチ野々垣メネット
中今月の聖句相川貴宏メン 右スピーチ依田友紀メン

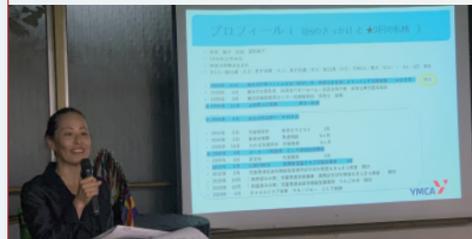
謹告

10月号ブリテンにおいて、聖句の引用を間違えておりました。正しくは「見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵み。なんとという喜び。」(詩編133編1節) 相川 貴宏選です。訂正してお詫び申し上げます。

10月卓話抄録

「こどもにより添うチャイルドケアとは」

山梨YMCA チャイルドケア事業部
マネージャー 中田 純子様



山梨YMCA
チャイルドケア事業では現在、下記の通り2部門で8事業所を運営しています。
・プライムタイム(甲府市放課後児童クラブ4ヶ所・独自運営1ヶ所)

・児童発達支援(ぼかぼか教室&きらきら教室・南西きらきら教室・りんごの木)

YMCAの目指す「FOR ALL」の実現の第一歩として、この2部門では子育て支援・障がい児支援を共に行うインクルーシブ型学童を2018年にオープンしました。ここでは、目の前のお子さんひとりひとりの個別課題の解決に取り組み、お友達と関わる中で自分の得意・不得意を知り、自分を理解しコントロールする力を育てる支援をしています。

人は一人では生きていけません。まず、お母さん、お父さんがいて産まれてきます。そして家庭生活の中で育ち、その後、幼稚園・保育園・児童発達支援園という地域での保育、療育が始まります。学童期を迎えると小学校へ入学し、教育が始まり義務教育最後の中学校へと移行していきます。子ども達にとって義務教育終了の時期までに心身ともに豊かな体験・経験が必要と言われています。しかし、これを子ども達自身で行うことは難しく、多くは子どもを取り巻く環境(家族・教育・地域・福祉)により実現されると言われています。子どもたちのこの大切なこの時期を担うチャイルドケアでは、「みつかる・つながる・よくなっていく」をモットーに、多くの子どもたちとつながり、お父さんを理解しそれぞれに合った支援をしていこうと思います。また、多くの活動を行うことで子どもたちのより良き環境作りに努めていく必要があると実感しております。子どもたちのこのこれまでの関わりの中で一番大事なことは、

子どもにより浴う=子どものより良き環境となる事

だと実感しております。これこそが、本当のチャイルドケアの実現の近道と考え、YMCAを取り巻く皆様に感謝しながら、固い決意で進んで行こうと思います。

30周年記念誌発行に資料、写真を集めています。
○事業報告書

2011年7月~2012年6月 年度
2012年7月~2013年6月 年度
をストックされてる方はお貸し下さい。

○これはと思われる写真も提供下さい。
○表紙タイトルをご応募願います。

ちなみに

10周年 懐古、感謝、希望
20周年 祈り、希望の21世紀へ です。



YMCAとともに

山本 俊一

「野分のまたの日こそ、いみじうあはれにをかしけれ」と枕草子に書かれています。これを読むと昔と今では台風の「破壊力」が違ったのだろう、と思います。「むべやまかぜをあらしといふらむ」とは文屋 康秀(ふんやのやすひで)、六歌仙の1人ですね。これも台風とは違った趣きです。今年は大きな台風が2回、私の住む千葉県を襲いました。15号と19号です。風の台風15号は房総半島に甚大な被害を及ぼしました。19号は雨の台風として、各地で水害を引き起こしました。が、当地で怖かったのは、台風のさなかに、「地震」があったことです。

さて、この10月から消費税が10%になり、店舗では現金払いではなく、キャッシュレス決済(クレジットカード、ICカード、スマホ決済など)をしたら割引になる、というのも始まりました。私の場合、1353円買物したら、27円割引になりました。約2%というところでしょうか。この買物は、8%商品が995円で10%商品(ビール)は358円でした。従って、消費税値上げ前よりも、総額的には安くなりました。(このキャッシュレス割引は、来年6月末までです。)既に体験なされた方も多くいらっしゃると思います。

千葉県では台風15号の後停電が10日間続いた地区もありました。そのような中、このキャッシュレス決済が果たして機能したのか、ということが気に掛かりました。この時インターネットでは「ツナ缶を使ったランプ」という備蓄したモノを利用した工夫が評判になりました。いわゆるツナ缶の真ん中にアナを空けてそこにティッシュペーパーをよじって入れて火を付けるというもの。約40分間灯りを点すことができる、そうです。そしてもちろん火が消えた後でもツナ缶は食べられます。今年3月の例会において三綿直人さんの卓話の中で、「洪水の時、一番不足するのは、いのちに必要飲み水です」というお話がありました。このお話には、情報洪水の時代の真に信頼出来る情報(いのちの水)という観点と、「備え」という観点があったように記憶しています。

閑話休題。現在山梨YMCAの新会館の建設が始まって2ヶ月余りとなります。この場所はもともと甲府市の中央保育所があったところです。それを払下げにあたり野々垣前会長が甲府市への折衝も含めて尽力されたと聞いております。最終的に山梨YMCAへ払下げが決まった根拠のひとつにYMCAがあれば何かあった時に、(災害が発生した時に)、「物心両面での備えになるからだ」とも言われています。些か旧聞ですが、熊本地震において、益城町で熊本YMCAが被災者支援活動に大活躍したことを思い起こしていただきたい、ということです。幼児から年寄りまで、避難所で生活を余儀なくされた時に、全てに対応、即ちFOR ALLというYMCA精神が発揮されたと報じられました。

私たちワイズメンは、YMCAのために何をしたらいいのでしょうか。「そこにYMCAがあってよかった」、と言われるように、「ワイズがいてくれてよかった。」と言われるものです。

速報・最後のバザー@連雀

松村 禎夫

秋晴れの好天気の中、11月2日に予定通り大盛況の内に無事終了しました。今年は、写真にあるように開店前に例年に増して大勢の方が並んでいました。これは、連雀街での最後のバザーということもあって、YMCAのスタッフを中心とした実行委員の方々の積極的な広報活動によるものと思います。荻野会長と佐藤さんを中心とした甲府21ワイズメンは、写真のようにキラキラの子供たちと一緒に、このバザーのために、この春から沼田さんの好意による境川の畑で、写真のように「ネギ、白菜、大根」を育ててきました。当日はそのキラキラの子供たちも加わって販売した結果、これらの野菜は完売できました。

速報・最後のバザー@連雀

野々垣 健五

59回目のバザーお疲れ様でした。
荻野会長や佐藤さんとそこに多くが出そろった姿は圧巻でした。グリーンが目立ちました。感想として、福袋の手配に落ち度がありました。昨年までの赤い袋が用意されませんでした。私の思い違いでした。売り場の方々にはご苦労かけました。来年はしっかりと対応します。今年の大根、白菜、長ネギはバザーの華になりました。緑はいい感じでした。お花は赤根さんの支度に加えて宮岡宏実さんの卓越した技量で早くに完売とか！駒田さんが急遽担当された衣料について、依田メネットが参じてくれてやはり華となりました。今年は、山梨さんと清藤さんコンビのポップコーンや綿菓子コーナーが大賑わいでした。素晴らしかったですね。焼き芋もです。やはり少しコストをかけてイベントを盛り上げることがうまくいきましたね。古本も徐々に2万円越したとか?! 素晴らしいものでした。やはり全ての準備の良さがここに華を開きました。今年、この場所での最後のバザーとなりました。みなさま、お疲れ様でした。



「取ったどお！」(ぼかきらの皆さん) 軽トラに積み込みます



ポップコーンどうぞ! 声をからして! 破顔一笑・・・。